MINKABU THE INFONOID
株式会社　ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都東京都千代田区神田神保町3-29-1

為替週間展望＝ドル円は軟調な地合いが継続か

［１２月２１日からの１週間の展望］

－－－

週間高低（カッコ内は日）　12 月 14 日～ 12 月 18 日

	始　値	高　値	安　値	終　値	前週比
ドル・円	104.02	104.15(15)	102.88(17)	103.38	-0.66
ユーロ・ドル	1.2128	1.2273(17)	1.2112(14)	1.2249	+0.0137

＝＝＝

国内株・金利／米国株・金利

	終　値	前週末比		終　値	前週末比
日経平均株価	26,763.39	+110.87	日本10年債利回り	0.010	-0.004
ダウ平均株価	30,303.37	+257.00	米10年債利回り	0.933	+0.037

＝＝＝

<来週の主要経済統計等>

２１日　英１２月ライトムーブ住宅価格
２２日　英第３四半期国内総生産（ＧＤＰ）確報値
　　米第３四半期国内総生産（ＧＤＰ）確報値
　　米１２月消費者信頼感指数
　　米１１月中古住宅販売件数
２３日　日本１０月景気動向指数改定値
　　米１１月個人所得・個人支出
　　米１０月住宅価格指数
　　米１２月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値、米１１月新築住宅販売件数
２４日　米新規失業保険申請件数、米１１月耐久財受注
２５日　日本１１月雇用統計、日本１１月有効求人倍率、日本１１月小売業販売額
　　クリスマスのため米国や欧州市場など多くの市場が休場

－－－

【前回のレビュー】リスク選好ではドル売りと円売り、リスク回避ではドル買いと円買いに傾き、ドルと円が同じ方向に動く流れは続いている。このため、ドル円は一方的な動きになりにくく、方向感の出にくい動きは続くとみられ、１０３～１０４円台での推移が継続するとした。

【ＦＯＭＣでは量的緩和策を長期間維持】

　１４日に米国での新型コロナウイルスのワクチンの接種が始まった。ただ、感染者数の再拡大が継続しており、欧米では行動制限も広がっている。世界の感染者数は７４００万人を超え、死者数は１６４万人に上る。米国では感染者数は１６９６万人に達し、死者数は３０万人を超えてきた。ワクチン接種や米追加経済対策への期待感と感染者数の再拡大への警戒感が交錯する中、米国株は高値圏で推移し、ドルは売られやすい地合いとなっている。

　１５～１６日に開催された米連邦公開市場委員会（ＦＯＭＣ）では、事実上のゼロ金利政策の維持を決めた。資産買い入れに関しては、国債を月額８００億ドル、住宅ローン担保証券（ＭＢＳ）を月額４００億ドルの合計１２００億ドルの購入ペースを維持する。これまでは「今後数か月は購入ペースを維持する」としていたが、「雇用の最大化と物価の安定が達成できるまで」として、長期化する方針を示した。

　パウエル議長は必要であれば追加緩和に踏み切る姿勢を示したものの、国債の買い入れ額の増額や購入する国債の年限の長期化などの措置は見送り、追加緩和の手段を温存した。ＦＯＭＣメンバーによる政策金利見通しでは、２０２３年末まで政策金利を据え置く見方が中心となっている。１７人のうち１２人が２０２３年末まで利上げしないと

見込んでいる。

　また、ＦＯＭＣメンバーによる米経済見通しでは、経済成長率を２０２０年は－２．４％として、前回（９月時点）の－３．７％から上方修正した。２０２１年に関しても＋４．２％として、前回の＋４．０％から上方修正している。失業率は２０２０年が６．７％（前回は７．６％）、２０２１年は５．０％（前回は５．５％）といずれも上方修正している。

　２５日はクリスマスとなり、欧米市場の大半とアジアでも多くの国々が休みとなる。その前後も市場参加者は休みに入るケースが多く、２１日からの週はクリスマスモードで市場参加者も減少する。クリスマス前は経済指標の発表も少なく、市場も模様眺め気分が広がる傾向がある。

　そうした中、米連邦準備制度理事会（ＦＲＢ）による緩和措置の長期化がドル売りの動きにつながることとなりそうだ。ドルは対ユーロ、対ポンド、対豪ドルなどで下落しており、ドル全面安の様相を呈している。ドルインデックスは１２月中旬に９１前後でもみ合っていたものの、１７日には８９台後半まで下落している。

　ドル円もドル売りの動きを受けて軟調な流れとなっている。１４日には１０４円近辺で推移していたものの、じりじりとドル売り円買いの動きが進んで、１７日には一時１０３円を割り込んで１０２．８８まで下落した。ＦＲＢの緩和策の長期を背景にドルの軟調な流れが継続するとみられ、ドル円は一段と下値を探る展開が見込まれる。ドル円の目先の予想レンジは、１０２．００～１０４．５０円。

　なお、１７～１８日の日銀金融政策決定会合では金融政策に特に変更はなく、市場への影響は限定的だった。

　今後の日米の経済指標やイベントとしては、２２日に米第３四半期国内総生産（ＧＤＰ）確報値、米１２月消費者信頼感指数、米１１月中古住宅販売件数、２３日に日本１０月景気動向指数改定値、米１１月個人所得・個人支出、米１０月住宅価格指数、米１２月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値、米１１月新築住宅販売件数、２４日に米新規失業保険申請件数、米１１月耐久財受注、２５日に日本１１月雇用統計、日本１１月有効求人倍率、日本１１月小売業販売額などがある。２５日はクリスマスのため米国や欧州市場など多くの市場が休場となる。

【ユーロドルは上昇基調が継続か】
　ドル安の流れを受けて、ユーロドルは上昇基調が続いている。１６日に発表された１２月のドイツ、フランス、ユーロ圏の製造業、非製造業の購買担当者景気指数（ＰＭＩ）速報値がいずれも予想を上回る良好な結果となったこともユーロ買いにつながった。１６日にユーロドルは２０１８年４月以来、２年８か月ぶりに１．２２台に乗せた。１７日には一段高となり、１．２２７３前後まで上値を伸ばした。

　ユーロドルはボリンジャーバンド＋１Σがサポートとなり、上昇基調が継続している。各国のＰＭＩの好転など経済指標も支援材料となっており、ドル売りの流れと合わせて上向きの流れが続くとみられる。なお、クリスマス休暇に入ることもあり、上昇一服となる可能性もある。ユーロドルの目先の予想レンジは、１．２０５０～１．２４００ドル。

　日米以外の今後の経済指標やイベントは、２１日に英１２月ライトムーブ住宅価格、２２日に英第３四半期国内総生産（ＧＤＰ）確報値などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

＜免責事項＞
本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

＜著作権について＞
本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。